

鳥獣の 保護管理 被害対策

ニホンジカを適正に管理し、被害を軽減させる！

～ 生息実態のモニタリングと角こすり害の回避調査 ～

研究の背景・目的

島根半島出雲北山山地では、シカによる農林業への被害（2012年は約310万円）が問題となっています。そこで、2003年から「特定鳥獣保護管理計画」を策定して、180頭の管理目標頭数を設定して捕獲圧を強化し、また各種の被害対策を実施することによってシカとの共存を目指しています。そのため、生息数の変動や個体群の動向を把握し、被害軽減効果を検証しています。また、湖北山地や中国山地等での分布拡大の実態を把握します。

研究方法

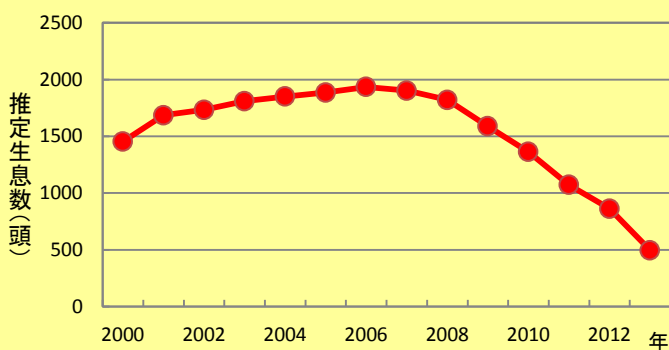
- ①出雲北山山地の生息数の変動をベイズ法によって推定するために、区画法、ライトセンサス、CPUE（1人1日当たりの捕獲数）などの調査を行っています。また、捕獲個体の年齢構成、下層植物の現存量、被害発生量の変動から捕獲による効果を検証をしています。
- ②スギ、ヒノキへの角こすり害を回避するための枝巻き法の効果を検証しています。
- ③島根半島の湖北山地や中国山地での生息域の拡大の実態をライトセンサスなどによって調査しています。

研究状況

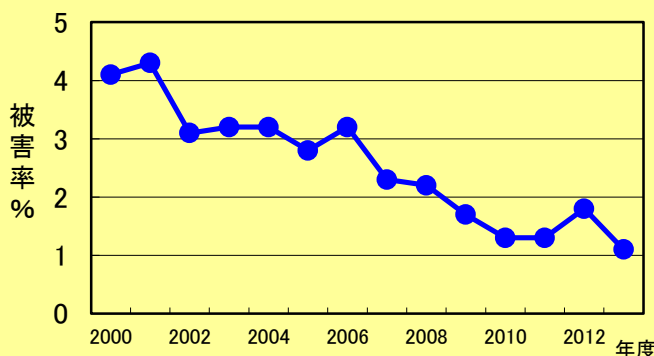
- ①2009年までは区画法によって生息数を推定していましたが、捕獲数からみると明らかに過少値であることからベイズ法を導入しました。2006年の1,940頭をピークに2011年には1,070頭、2012年には750頭、そして2013年には500頭へと減少しました（図）。
- ②CPUEの変動、ライトセンサスによる発見数、下層植生量の回復状況などから、生息数は確かに減少しており、シカにとって良好な生息環境になってきたといえます。
- ③生息数の減少に伴って、角こすり害の発生率は半減して捕獲の効果を認めました（図）。
- ④湖北山地や中国山地側でも生息域を拡大していることが明らかになりました。



ライトセンサスで発見した
母子グループ



出雲北山山地でのベイズ法による推定生息数の変動



角こすり剥皮害の発生率の推移

研究成果の活用・今後の研究計画

- ①出雲北山山地での捕獲数は、毎年生息数調査の結果に基づいて決められています。
- ②捕獲されたシカからは、年齢や妊娠率などを調べて、個体群の特性をモニタリングしています。
- ③得られた研究成果は、第IV期の「特定鳥獣保護管理計画」の改訂に反映される予定です。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 金森 弘樹 (かなもり ひろき)

問い合わせ先 : 0854-76-3818

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : ニホンジカの保護管理と被害対策のモニタリング調査 (研究期間 : H24~28)

